

⑪

千里ニュータウン内の草地

文・写真 有川 佳代子(すいた市民環境会議)

千里ニュータウンは、1960年代に吹田市(及び豊中市)北部の千里丘陵に建設されました。1970年の大阪万博を機に周辺の里地・里山の多くが無くなりました。そんな中、ニュータウン内の空地は年2回の草刈りが50年ほど継続されてきたことで、チガヤ草原のような開発以前の畦畔やため池の土手の植生が回復し維持され、初夏にはウツボグサ、秋にはワレモコウやオガルカヤが群生する草地となり、2011年、すいた市民環境会議の観察会で大阪府では70年ぶりとなるヤマサギソウが発見されました。そこでは希少種のイヌセンブリ、スズサイコ、アイナエも見つかり、2020年には別の草地でヒキノカサの群生も確認されました。このような希少種が生育していたことは驚きとともに大変うれしい発見でした。しかし近年、草地の売却や古い団地の建て替えが進み、草地の消滅が懸念されます。すいた市民環境会議編集・発行の「レッドリストすいた2021」には、守りたい生態系や動植物が記載されています。吹田市にこのような場所や生物が残っていることを知り関心を持つことで、生育環境の保全につなげていければと思っています。



写真上部のチガヤ草原は近年売却、宅地化



ヤマサギソウ

⑫

枚方市穂谷

文・写真 今枝 紀夫(枚方しぜんハイキング)

枚方市の東部、京都府・奈良県の境にあり、環境省のモニタリングサイト1000里地調査(コアサイト)として長期間のモニタリング調査を実施しており、日本の里100選にもなっています。穂谷を拠点とする枚方しぜんハイキングの有志が4月から11月までモニタリングの調査を実施しています。多い時は1日で20数種のチョウを確認することがあります。チョウの調査時にトンボの調査班や植物の調査班、枚方市の生物調査と出会うこともあります。穂谷は生駒山系の北部にありますので生駒山麓の枚岡公園とは異なる生態系だと感じています。また田んぼの近くの水辺でニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルの卵塊、ヤマトサンショウウオ(旧名:カスミサンショウウオ)の卵のうに出会うと自然がまだ残っていると安心します。ただ、今年の3月にヤマトサンショウウオの卵のうを見つけた際、帰り道では消失していました。飛来していたアオサギに食べられてしまったようです。自然界の厳しさを実感しました。昨年6月にキツネの姿を見たときは穂谷の自然の奥深さを感じました。



ヤマトサンショウウオの卵のう



シュレーゲルアオガエルの卵塊